

老朽化法面補修工法 のりフレッシュ工法について

ライト工業(株)西日本支社中国支店営業企画室 藤本 和明

のりフレッシュ工法は、老朽化した吹付モルタル面（吹付コンクリート含む）をはぎ取る事無く更新できる工法です。本工法は、増厚工、空隙充填工、地盤注工の3工種を組み合わせる事で、のり面を安定させます。これら3工種の組み合わせにより5タイプに分類されます。

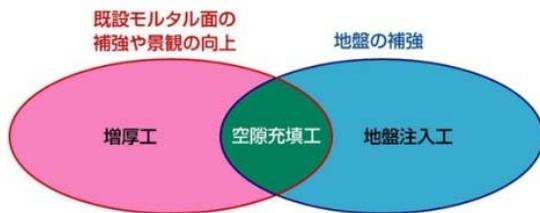
- NETIS 情報 ■老朽モルタル補修補強工法 ・QS-990023-A ・平成 19 年 2 月
- ・建設廃材の発生を抑制した既設のり面構造物(吹付モルタル)の補修技術
- のりフレッシュ工法（既設モルタル補修型）・QS-120026-A ・平成 24 年 12 月
- ・産業廃棄物の発生を抑制した既設のり面構造物（吹付モルタル）の補修技術

1. 概要

本工法は、以下の3工種の複合効果によりのり面・斜面を安定させる特徴を有しています。

- ① 既設吹付モルタル面の補強や景観の向上を目的とした増厚工
- ② 地盤と吹付モルタル背面の密着性を高めることを目的とした空隙充填工
- ③ 地盤の強化を目的とした地盤注工

■3工種の複合効果

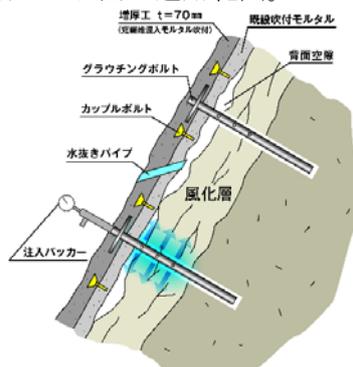


2. 用途・適用範囲

本工法は、岩盤斜面に施工されている既設吹付モルタル面を対象としています。ただし、湛水部に施工された吹付面は適用範囲から除きます。

- ① 風化層厚が2.0m程度までの表層すべりに適用可能。
- ② モルタルの圧送距離は100m（直高で45m）以内が標準的な施工範囲。
- ③ 表面処理をモルタル吹付とする場合の勾配は1:0.3より緩いのり面が適用範囲。

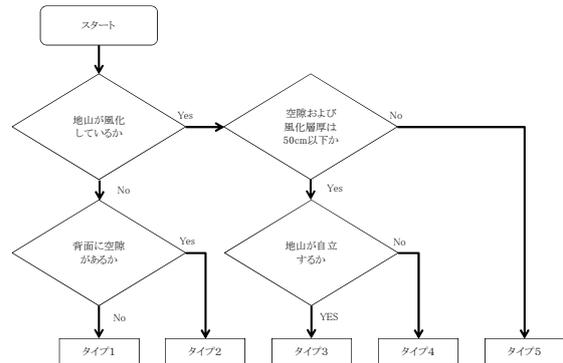
工法概要図
タイプ3



3. タイプ別工法選定フロー

既設モルタルのり面の老朽化は、複数の要因が重なり現象として現れます。本工法は、劣化程度が異なり一様でないのり面に対し、最適なコストとするため、工法を5種のタイプに分け、必要とされる機能と補修補強の回復レベルに応じた組み合わせを実現することを可能としました。

工法選定フロー



各タイプの説明

タイプ1

【地山風化なし、背面空隙なし】
アンカーボルト仕様

タイプ2

【地山風化なし、背面空隙あり】
アンカーボルト仕様+空洞充填

タイプ3

【地山風化あり、空隙0.5m以下、地山自立する】
グラウチングボルト仕様

タイプ4

【地山風化あり、空隙0.5m以下、地山自立しない】
自穿孔グラウチングボルト仕様

タイプ5

【背面風化0.5m以上、地山自立しない】
2重管自穿孔ロックボルト仕様